

- Q. 新十津川駅を生かす取り組みは
 A. 観光パンフやホームページで紹介
 Q. 空き家の適切な対応を
 A. 条例を制定し対応したい

質問 終着駅新十津川を訪ねる人が増えていると思うが、町の活性化につなげては。

町長 JR札沼線の終着駅となつている新十津川駅に鉄道マニアなどが相当数、来町すると認識している。この人々を心地よく迎えようとボランティアの方々や空知中央病院の職員の皆さんの知恵と献身的な活動により安らげる空間を創造していただいたこと心から感謝するとともに、この活動に敬意を表する。今年には新たにポニー3頭が放牧され、観光客に加え、町内の幼児や児童をつれた家族連れも見ら

終着駅の活用は



後木 幸里 議員

れ思わぬ賑わいとなった。町はこれまで、駅前に観光案内板の設置、駅舎内に観光パンフレットの常備、観光案内所をお知らせするのぼりを設置している。のぼりの立つ5事業所は「まちの案内人」としての役割を担ってもらっている。これからは、町のホームページや観光パンフで終着駅を紹介し、来町者の増加に繋がるよう努力する。このような地道な活動が本町活性化の一助となるものと思う。



▶レトロな新十津川駅

空き家・空き地の対策は



笹木 正文 議員

質問 危険が潜む空き家や景観を損なう未管理の空き地は、地域の過疎化や高齢化に伴って、今後ますます問題が表面化してくると思われる。特に放置された廃屋等は、所有者の意向や利権も絡み周辺住民だけで解決するのは難しい問題である。今後の空き家・空き地対策の基本方針を伺う。

町長 本町が今年7月に行つた適正に管理されていない空き家、空き地の実態調査では、空き家が42件、空き地が22件、そのうち危険を伴う全半壊の空き家は6件あった。特に、管理が不十分な空き家は、強

風や大雪等により近隣住民にも被害が及ぶ可能性があると考えられる。

未管理となる原因は、所有者が町外に住む場合や経済的な理由で管理が出来ないことなどが挙げられる。本来、私有財産である空き家・空き地は、その所有者に管理責任があるはずである。しかし、町は現状や今後発生しうる問題に適切に対処する必要があると認識し、町民が健康的で安全かつ快適な生活を営むための環境づくりを重視し、危険な空き家や景観を損ねる空き家を解消していくための条例策定に着手する。その際、原則は所有者管理ではあるが、解体経費の一部助成など経済的問題にも配慮した検討を行う。



▲国道275号線沿いの廃屋